

学校運営計画 (4月)			
学校運営方針	高校生活を通して、確かな学力を身につけ、豊かな人格と健全な身体を育み、グローバル社会を生きぬく国際感覚を磨く。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	評価
<p>文武両道を推進するとともに、昨年同様職員が一丸となって教育活動に取り組めた。</p> <p>部活動においては、サッカー部が、3年連続で全国高校サッカー選手権大会に出場を果たし、レスリング部、陸上部、ソフトテニス部がインターハイに出場した。またバレー部が関東大会に初出場するなど各部活、感染対策を行いつつ、活発に活動できた。</p> <p>国際交流では、12月にオーストラリアより9名の生徒が短期留学に訪れ、校内プログラムや生徒宅でのホームステイなどを行い交流を深めた。</p> <p>GIGAスクール構想により全学年にタブレットが準備され、ネットワークも整備された。生徒に探求学習を行うにはタブレットは不可欠である。探求した経験があらゆる場面で活かされるよう指導していきたい。</p> <p>新学習指導要領が導入された1, 2年生は、主体的、対話的で深い学びの視点からカリキュラム作成した。また、観点別評価も始まったので、3観点に重きを置いた生徒個々の評価を各教科主任を中心にしっかり行っていく。</p> <p>鹿行地域を中心とする中学校の連携のみならず、積極的に地域貢献を果たし、地域に必要とされる学校づくりを目指す。</p>	学習指導の充実	<p>学びに向かう力、人間性</p> <p>学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身につけさせる。</p>	A
		<p>知識及び技能</p> <p>実際の社会や生活で生きて働く力を身につけさせる。</p>	A
		<p>思考力、判断力、表現力</p> <p>未知の状況にも対応できる力を身につけさせる。</p>	B
	進路指導の充実	<p>個性に応じた能力を發展させる進路指導</p> <p>○生徒一人ひとりの希望に応じた進路を決定する。 ○十分な時間をかけ生徒一人ひとりの適性を判断する。 ○生徒自身の進路に対する意識を高める。</p>	B
		<p>将来を見すえた進路行事の計画</p> <p>○大学見学、体験学習、職場見学など、年間を通して計画をしっかり立てる。</p>	A
	生活指導の徹底	<p>基本的な生活習慣の確立と自律心の育成</p> <p>○高校生として基本的な生活習慣を身につけさせる。 ○自ら物事を考え、行動できる力を身につけさせる。</p>	A
		<p>いじめ未然防止活動の充実</p> <p>○毎日の学校生活において他者への理解を深める姿勢を持たせ、コミュニケーション能力を育成し、いじめがいかに非道な行為かを理解させる。生徒一人ひとりの個性を理解し、小さな変化に気づく目を養い、いじめ未然防止に努める。</p>	A
		<p>安全教育の充実</p> <p>○交通安全教育・SNS適正利用教育・薬物乱用防止教育・防災教育を充実させ、身近な生活の中で危険が多いことを理解し、意識を高める。</p>	A
	その他	<p>カリキュラムマネジメント</p> <p>○総合的な探究の時間を充実させるため、各学年と協力し、見通しを持って学ぶためのキャリアパスポートを活用する。 ○「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みを構想する。</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の向上	辞書を引く習慣を身につけさせ、語彙力を向上させる。	C	辞書アプリをどのように引かせるか、非常に難しい。実力テストの成績が悪い。普段の授業からどのように汎用性のある実力につなげていくかが大きな課題。
		漢字検定の受検者数、合格率を上げる。	B	
		「読む」「話す」「書く」ことを反復させる。	B	
	授業の改善	一方的な授業ではなく、双方向の授業になるように努める。	B	
		定期試験のみならず、実力テストの成績を向上させる。	C	
		共通テストを視野に入れた指導を行う。	B	
		定期的に研究授業を行う。	A	
地歴公民	基礎学力の向上	基本的な学習習慣を身につけさせる。	B	授業内でタブレットを使用して活発に調べ学習を行っている。しかし、生徒たちが自主的に課題を設けて授業に取り組むことがまだできていない。今後グループワークなどを積極的に取り入れ思考力・表現力をつけさせたい。
		基礎・基本の定着を図り、ICTを更に活用し、疑問、不明な箇所を自ら調べさせることにより、内容を理解させる。	B	
		補助教材を使用した予習・復習を促し知識の定着を図る。	A	
	興味・関心を高める授業の工夫	映像資料・新聞記事などから、身近な社会問題に着目し、歴史的背景、社会のモラルやルールを理解し、実社会の適応能力を身につける。	B	
		授業に対する姿勢、授業内容への理解度を把握するための生徒への問いなど主体性を持てる工夫をする。	B	
	表現力の向上	身近な社会問題を題材にアクティブラーニングを取り入れ、主体的な思考力、表現力を育てる。	C	
数学	数学に対しての関心の向上	身近な例を取り入れ、生徒が興味・関心を持てる授業を行う。	C	基礎的な内容の定着を図るとともに、生徒の進路に応じた指導を行う。また、ICT機器を活用し、効率的な授業を行う。
		デジタル教科書やスタディサプリを授業展開に取り入れ、生徒のICT活用を促進させる。	B	
	基礎学力の向上	定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。	B	
		教科書、問題集やスタディサプリ等から宿題を与え、予習・復習の習慣化を図る。	B	
		理解不足や疑問のある生徒が自主的に復習し、質問等に來られる環境をつくる。	B	
	数学的考察力の強化	既習の内容を用いて様々な発展問題に取り組ませる。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
外国語	基礎学力の向上	定期的に教科会で各クラスの状態を共有することにより、授業進度、発問内容、課題、アクティビティなどが習熟度・技能に合っているか生徒の理解度を測る。	B	今年度は単語テストや振り返りテストなど定期的に実施し、生徒たちの理解度を測ってきた。真剣に取り組む生徒もいたが、その重要性が理解できない生徒もいた。いかに、このような取り組みが英語力向上につながるのか理解させることが課題である。また、英検受検者は例年通り多かった。合格者を増やすことも目標である。
		授業内で単語テストを定期的に行うことにより、語彙力の向上を目指す。	B	
	英語力の更なる向上	民間英語試験の受検を推奨し、検定合格者を増やすことを目指す。また、検定対策を補習や講習を通じて検定取得のサポートをする。	B	
		ネイティブ講師と協力し、授業内でアウトプットする機会を設け、実用的な英語の習得を目指す。	B	
	家庭学習の習慣化	振り返り課題を出題することにより知識・技能の定着を目指す。	B	
		ICT機器を用いて、オンライン学習の課題を配信し、家庭学習の習慣化を目指す。	B	
	授業の工夫と改善	実力テストや英語民間試験の結果を分析し、授業の改善に役立てる。	B	
		定期的に教科会を開き、意見を交換する。また、研修会にも積極的に参加し内容を共有する。	B	
理科	基礎学力の向上	授業内での小テストや問題演習を通して基礎の定着をはかる。	B	
	自然の事物・現象に主体的にかかわり科学的に探求しようとする態度を養う	授業内の発問により、生徒の意見を多く発信させる。	B	
		実験結果から考察を通し、科学的な事物・現象への理解を目指す。	C	
		ICT機器を用いたデジタル教科書の活用や演示実験を通して、知的好奇心や探究心を喚起させる。	B	
	問題解決能力の向上	科学的課題にグループで協力し合いながら取り組み、発表させる。	C	
授業の工夫と改善	毎授業でリアクションシートを提出させ、授業に対する姿勢、授業内容への理解度を把握し、生徒の疑問に次の授業で答えるなど、授業の改善に役立てる。	A		
家庭	生活を主体的に営むために必要な力を養う	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。	B	
	生活の課題を解決する力を養う	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報	情報社会へ参画する態度の育成	情報社会でのリテラシーを理解し、実生活へと結びつける。	B	プログラミングをVBAで実施した。本校の実情から更に時間をかけることで、理解力だけではなく、コンピュータへの興味が上がると感じたため、来年度は実習の時間を増やたい。
		情報通信技術を利用し、適切に情報を収集・処理・発信する実践力を育む。	A	
	情報技術への知識・理解を深める	コンピュータ実技を通し、基礎的な操作方法やプログラミング的思考を身につけさせる。	A	
保健体育	生涯にわたって継続し運動に親しむ態度を養う	体力テストや健康診断の結果をもとに個々の目標を設定・達成させ、その運動の楽しさや喜びを感じられるようにする。	B	体育実技授業におけるICTの導入が弱かった。体力テストをICT化し、通常の授業指導に生かす。また、映像による授業種目の見本や実技授業のポイントの解説など導入し、ICT機器をより活用していく。
	健康の保持増進のための基礎体力の向上	生徒一人ひとりの能力・適正、興味・関心、体力や生活に応じて種目を選択し、指導法を工夫する。	A	
	基礎学力の向上と更なる意欲を育む	健康的な生活習慣を身につけさせるため、ICT機器を積極的に活用し、生徒同士の対話を実践させる。	B	
	生徒が自主的・意欲的に取り組める環境の整備	グループ活動により、各グループの課題や個人の課題に沿った練習内容を映像などを活用しながら考え実践させる。	B	
		運動が得意、不得意関係なく取り組める種目の設定や活気あふれる雰囲気づくりを目指す。	A	
芸術	授業において芸術の幅広い活動の展開	評価の規準を明らかにし、生徒たちが目標をもって授業に取り組めるように支援する。	A	美術では、鑑賞時間を多く取り入れ、作品について深く知る時間を設けたいと考える。音楽では、様々な国の曲を多く取り入れ、日本以外の言語や曲について触れる授業を組み込む。
		様々な芸術作品から作者の意図を読み取り、作品を深く知る。	B	
		実践的・体験的な諸活動を多く取り入れ、表現力を磨く。	A	
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の芸術的な価値意識を一層拡大できるようにする。	A	
		生活を明るく豊かにする創造活動をしていくための基礎となる能力・資質を育てる。	B	
	我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探求	日本の伝統音楽に触れる。(音楽)	A	
		西洋と日本の作品を比較し、日本伝統美術の独自性を考察する。(美術)	B	
		音楽の分野の歴史やその背景について学ぶ時間をつくる。	B	
美術作品の美しさや多様性を感じ取れるようにする。		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外部	PTA活動の推進	PTA各種行事を開催する。同時に、保護者が積極的に参加できるよう内容を充実させる。	B	生活環境委員会の活動が登校指導のみになってしまったので、来年度は刷新する。保護者負担軽減のために、教員の負担が大きいのので広報誌のデジタル化など省略化できるところは前向きに検討したい。
		県私保連との連携強化を図る。各種研修会への参加する。	A	
	広報活動の充実	広報誌の内容を吟味し、正確な情報を発信する。また、内容の充実に努める。	A	
入試広報部	中学校との信頼関係に基づく入試体制の確立	中学校の教員と連絡を密にとり、そこで得た情報を基に入試制度を改革する。	B	今年度は大幅に定員を超過したため、次年度は定員を大幅に超過しないように意識をしながらの募集活動を行う。強化部と連絡を密にとりながら募集活動を進める。
		中学校に対して丁寧な入試業務を行う。	A	
	中長期的展望に立脚した入学者数の確保	定期的に中学校・学習塾を訪問し、本校教育活動の広報に努める。	B	
		各コースの教育活動を充実させ、生徒のレベルアップをはかる。	B	
	広報活動の充実	ホームページ・パンフレット・ポスターを魅力的なものにする。	B	
		学校見学会・入試説明会など様々な広報活動を通して、本校の魅力を十分に伝える。	B	
生徒指導部	特別活動の充実	HR活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して心身の成長を促す。	B	重大案件に発展するものはなかったが、適切な距離感を持ってないことによる対人トラブルが目立った。社会集団を生き抜くために必要な、知識や行動力が身に付けられるような取り組みが重要であると感じている。
	学校生活を通じた人格形成	学校生活を通して、心身ともに健全な人間を育てる。	B	
		学校生活を通して、他者への理解と自己肯定感を持たせる。	B	
		学校生活を通して創造性や判断力を養い、実社会に必要な協調性やコミュニケーション能力を育てる。	B	
	いじめ未然防止活動	生徒・教員相互のコミュニケーション密にし、定期的にアンケートを実施し、いじめの未然防止に努める。	B	
寮生部	安全管理	学期に1回の避難訓練を実施する。避難経路の確認する。	A	寮と学校でインフルエンザによる集団感染があった。寮内でもマスク着用や部屋移動禁止など可能な対応をしたが、感染を防ぐことができなかった。来年度は体調管理など徹底して指導していきたい。
		必要に応じたマスク着用や部屋の換気、入浴記入表など徹底する。	A	
	基本的な生活習慣の確立	起床時間や消灯時間を徹底させるとともに、体調・体温の確認を朝と夜の二回行う。	B	
		規律ある共同生活を行うことにより、将来にわたる人間形成に資する教育を行う。	B	
		日勤舎監とも連携を密にしながら、清掃状況などのチェックをしっかりと行う。	A	
学習習慣の定着	自主的に学習するよう生徒に目標をもたせ、学習時間を徹底させる。	B		
強化部	心身の健全な発達	運動の楽しさを感じながら、各種専門的な技術を高める。	B	生徒募集に関しては、各部全体的に例年以上に生徒確保ができた。
		他の生徒の模範となる言動を心掛けさせる。	A	
	広報活動の充実	次年度に向けても優秀な生徒(選手)を一人でも多く獲得できるように募集活動を積極的に行う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健環境部	学習環境の整備	黒板・掲示物・窓枠・網戸・清掃用具入れの点検・整備をする。	A	学習環境の整備として、机やロッカーの整備はできたが、備品や校内の安全点検の定期的な実施が必要と思われる。また、地域の清掃も行事前に実施したが計画的に実施したい。今年度の身体測定では、時間内に終わらなかった学年があった。来年度は1年生の人数が増えるので工夫が必要になる。
		机・椅子・教卓・黒板消しクリーナー・電子黒板の保全・点検をする。	A	
	環境美化意識の充実	環境美化委員会を動員して、校内の美化に努める。	A	
		資源ごみ・可燃ごみなど分類の徹底を図る。周辺地域の清掃にも取り組む。	B	
	防災・避難訓練の充実	防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練などを実施する。	A	
		地域の関係機関と連絡を取り合うなど、防災への取り組みを充実させる。	B	
	心身の健康管理能力の育成	定期健康診断や保健教育を計画的に実施する。	B	
		心身の健康問題に対して早期に対応し、自ら健康的な生活を送ろうとする態度を育てる。	A	
健康・安全教育の充実	保健だよりや掲示物で保健・安全に関する情報発信を積極的に行う。	A		
	感染症予防のための指導と環境整備をする。	A		
教務部	主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善	授業改革委員を中心に授業実践をし、それを元に、各教科主任とも連携を取りながら、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業のあり方を検証していく。	B	今年度は振り返り課題や振り返りテストを導入するなど学力向上の制度改革が行えた。来年度はそれらの効果検証をし、さらなる改善に向けて注力する。
	進路実現のための学力向上	本校の現状にあった教育課程を弾力的に検討・編成する。	B	
		進路決定の際に生きる学力の定着を実現するため、日々の授業を重視した評価や授業の制度設計を検討する。	A	
	学校活動を円滑に進めるための規定の整備	教務規定の見直しを引き続き行う。	B	
事務室	緊急時の対策	緊急発令があった場合を想定し、生徒・教職員の安全確保に備える。	A	更にSDGsの取り組みを心掛け、外部からの対応も捉え方の違いがないよう確認しながら行っていきたい。
		定期的に校舎、学生寮等の施設点検を行う。地震・火災・落雷・水害等後は、しっかり確認を行い共有する。	B	
	個人情報の管理	郵便物、提出資料の受付をしっかり記録管理する。親展、速達等の特別な物については、手渡し・伝達をしっかりと行う。	B	
		生徒、教職員の個人情報管理をしっかりと行う。常にPC、机上等の管理を心掛ける。特にメール送信、支払送金する際は、念入りにチェックをする。	A	
	電話・窓口対応の心遣い	相手が見えない電話での対応には丁寧な言葉対応を心がけ、相手に不愉快な思いをさせない気持ちでの対応を心掛ける。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国際部	安心・安全な留学生活	基本的な生活習慣を確立する。	B	より良い留学生を送るため、留学生自治会を中心に自発的な提案や取り組みが見られるようになってきた。また、本校生徒の多様性に対する寛容な受け入れ態勢により、留学生達が楽しく安心した学校生活を送っている。今後も各留学生の能力や特性に合わせ、より多くの留学生が活躍できる場をつくっていききたい。
		ルールを尊重する姿勢を養う。	A	
	留学・留学生を通じた多様性への理解	留学生は日本での留学生活を通し、その文化や価値観を体得し、尊重する心を養う。	A	
		職員は留学生を通し、グローバルな視点を養い、その多様性を受け入れる土壌を創る。	A	
	留学生の能力・魅力を発揮する	外部イベント等を積極的に案内し、興味関心のある分野において個々の能力を発揮させる。また、留学生生活を継続する上での自信や意欲につなげる。	A	
	自律した留学生活	学習や学校生活を通し、自己解決能力を育む。職員は留学生が課題を解決する道筋や方向を示す。	B	
留学生自治会主導によって規律と活気ある留学生活が送れるようにする。		A		
進路指導部	生徒の主体的な進路選択の支援	進路ガイダンスや学年集会などを通し、進路への意識の向上をはかり、希望進路実現のために何が必要かを考えさせる。また、学習指導や進路指導については最新の情報をもとに各教科にも協力を求めて行う。	A	
		多様な進路希望に対応できるよう、資料やPC環境を充実させ、利活用を促進する。また、個人の携帯電話などを活用した進路学習の指導を充実させ、職業観や勤労観の育成を図る。	A	
		生徒面談や三者面談によって、生徒一人ひとりの希望・適性に応じた進路相談を行なう。また、生徒をオープンキャンパスや会社見学に積極的に参加させ、進路に対する意識づけを行う。	A	
		総合的な探求や進路行事を通じて、3年間を見通した進路指導を行なう。また、生徒が高い進路意識を持ちそれを実行する力を育むため、進路講座や各種ガイダンスを開催する。	A	
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒の希望進路実現のために、教員一人ひとりが授業の質を向上させるとともに、各教科で授業研修を行い全体としての指導力向上に努める。	B	
		実力テストや模擬試験の結果を分析し、進路指導部・学年・教科で共有し効果的な指導を行う。	B	
		夏期講習・冬期講習・春期講習・放課後のゼミを実施するとともに、スタディサプリの活用によって、成績上位層だけではなく、留学生も含めた全体の学力向上の支援を行う。	A	
		オンライン学習の機会を拡充し、幅広く学べるように支援する。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
学校図書館	利用者数・貸出数の増加	地域の図書館と連携し、団体貸出などを利用することで、生徒により多くの読書の機会を与える。	C	地域図書館との連携が途切れてしまったので、再度構築し、しっかりと連携して生徒のニーズにあった図書館づくりに取り組みたい。
		様々な授業で図書館を活用してもらうことで、図書館に対する認知度を上げ、利用者拡大につなげる。	B	
		生徒や教員に希望図書などのアンケートを実施し、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	B	
		図書館内の掲示物や配置などを工夫し、利用しやすい環境づくりに取り組む。	B	
	本に親しむ環境づくり	図書委員会の活動の場を増やし、生徒に図書委員としての自覚を持たせるとともに図書委員会の活性化を図る。	B	
		学習・読書の情報センターとしての図書館だけではなく、生徒にとって居場所の一つとなる環境づくりに取り組む。	B	
1学年	基本的な生活習慣の確立	学校生活を通し、基本的な生活習慣を身に付け、多様性を理解しつつ一般常識を持った生徒を育てる。	A	基本的な生活習慣は身に付いたと思うが、人間関係におけるコミュニケーションでは課題が残った。
	豊かな人格形成	授業や行事等を通し、豊かな人間性を育み、誰とでもコミュニケーションが取れる生徒を育てる。	B	
	行動力の育成	明確な目標を持ち、計画的に行動できる生徒を育てる。	B	
2学年	礼節を備えた人格の形成	授業やHR活動、各行事を通じて、相手を尊重し敬うことができる生徒を育てる。	B	生徒の学習に対する意欲を引き出し、高校生として十分な学力を定着させる。
	主体的に行動する意欲の向上	一人1台PCを活かした探究活動により、何事にも興味を持ち、成長意欲が高い生徒を育てる。	B	
	学習習慣の確立と学力向上	各生徒に合わせた目標設定を行うことで、やる気を引き出し、学力向上を目指す生徒を育てる。	C	
3学年	進路希望の実現	希望進路に向けて、学習指導や面接指導の充実を図る。	B	3年という時間をかけて、成長するために、しっかりと目標設定や、計画を立てていく。
	社会に出るための、規律のある生活態度の育成	学校内の規則だけではなく、社会での規則・規律を理解し・行動できる態度を育む。	B	
	主体的な思考・判断・表現の向上	最高学年として、自らすべきことを考え、行動に移す実行力の向上を図る。	B	

評価基準 A:十分達成できた B:ある程度達成できた C:不十分であった